

下原委員（草莽の会）

平成 30 年 3 月 7 日
知事答弁実録
(教育委員会)

(問) 今後の本県教育について

知事は、是正指導以降の本県教育の再生に向けたこれまでの取組の成果をどのように捉えているのか、また、本県教育の歴史を踏まえたこれまでの取組をベースに、「広島県 教育に関する大綱」で掲げる「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県」の実現に向けてどのように取り組んでいこうとしているのか、併せて知事の決意を伺う。

(答)

本県教育につきましては、是正指導以降、教育の中立性と公開性を柱に、県民総ぐるみによる様々な改革・改善への取組により「知・徳・体」のそれぞれの面で着実に成果が表れ、全国水準を上回るどころまできており、現時点では、更なる飛躍を目指す段階まできていると考えております。

これからの社会は、グローバル化あるいは情報化が急速に進展し、また先行き不透明でございます。これまで培ってきた知識・技能・経験ではなかなか最善解を導くことが難しい。そういう中で、それをしていかなければならない、という状況でございます。

本県では「教育に関する大綱」において、「幼児期から大学・社会人まで」を見据えて、学校・家庭・地域、さらには経済界、産業界も含めた「オール広島県」で、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」を育成することとしております。

「学びの変革」アクション・プランに基づいて、この先導する叡智学園の開校準備もでございます。

私としては、本県教育が絶えず成長・発展しながら次のステージへと進んでいくことができるように、新たな時代に応じた取組に果敢に挑戦していくことによって、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県」の実現に向けて、教育委員会の取組をしっかりと支援してまいりたいと考えております。